

この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

1. 目標達成への配慮・工夫

教育基本法や学校教育法の理念を踏まえて、「生きる力」をより具体化した編集上の配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う	<ul style="list-style-type: none"> 4人の中学生のストーリーを通じて、身の回りのことから社会や世界のことへと学習を進めることで幅広い知識と教養を身に付けるとともに、登場人物の互いを思いやる姿から豊かな情操と道徳心を培うように配慮している。 実社会に即した場面や素材を豊富に扱うことで、生活の中で実際に活用できる知識と教養を身に付けられるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 Daily Life, World Tour など
2 自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 友達と伝え合う喜びを感じられるような言語活動を工夫し、友達のいろいろな面を発見して、他を敬愛する態度を養うように配慮している。 グループで協力して課題に挑戦する活動を位置づけることで、協力を重んずる態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 You Can Do It!
3 公共の精神に基づき、社会に参画し、その発展に寄与する態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の目標を「これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合うことができる。」と設定し、多様な社会的な題材について考えることで、社会に参画し、その発展に寄与する態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年全体
4 生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 絶滅危惧種、清掃ボランティア募集のポスター、海洋プラスチックゴミ、地球環境サミットでのスピーチなど、環境問題について考える教材を豊富に位置づけ、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年 pp. 46-47, pp. 64-74, pp. 98-101 など
5 伝統文化を尊重し、国と郷土を愛するとともに、国際社会に寄与する態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の目標を「自分の町や日本の文化などについて、内容を整理して伝え合うことができる。」と設定し、言語活動を通して伝統文化を尊重し、国と郷土を愛する態度を養うように配慮している。 小教材 World Tour に国際理解を深めるためのさまざまな教材を位置づけ、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年全体 World Tour
6 基礎的な知識・技能の習得を図る	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitの学習で基礎的な知識・技能を着実に習得できるように構成している。習得にあたっては、それに応じた言語活動を伴うように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体
7 思考力・判断力・表現力を養う	<ul style="list-style-type: none"> You Can Do It! では、コミュニケーションの目的に応じて、伝える内容や表現を共同で考えるThinkingの活動を盛り込み、思考力・判断力・表現力を養うように工夫している。 UnitのほかWorld TourやLet's Readなどの教材に、Thinkの問いを設け、文脈から類推したり、想像力を働かせたりするように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> You Can Do It! Unit, World Tour, Let's Read など
8 主体的に学習に取り組む態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体の目標や各教材の目標を明示するとともに、各UnitとYou Can Do It! にふり返りのコーナーを設けて、主体的に学習に取り組む態度を養うように配慮している。 各学年に発達段階に応じた英語の学び方ガイドとYour Coachを設け、自主的・自律的な学習に資するように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit, You Can Do It! 英語の学び方ガイド, Your Coach

2. 学習指導要領への対応

学習指導要領の教科の目標や内容を踏まえて編集上の配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 外国語の知識を理解し、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> Unitの各パートの本文で学習すべき言語材料を提示して「聞く」「読む」「話す」「書く」それぞれの技能でそれを活用できるようにしており、5領域のバランスや活動の一貫性が考慮されている。また、Unitの基本文のコーナーやActive Grammarで文構造や文法等の知識を丁寧に整理し、活用できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit, Active Grammar

2 コミュニケーションの目的や場面に応じて、外国語で理解したり表現したりすることができる力を養う	<ul style="list-style-type: none"> 言語活動にあたって、コミュニケーションの目的や場面をはっきり示している。 各UnitのGoalやYou Can Do It! で、理解したことを表現につなげる言語活動が工夫されている。「聞く・読む」については、何を聞き取ったり読み取ったりするかを考えて、「話す・書く」については、伝える内容や構成、表現を考えて、活動に取り組むようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 UnitのGoal, You Can Do It!
3 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> ニューヨークへの旅、世界の学校生活などのUnitの題材や各学年のWorld Tourの教材を通して、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができるようにしている。 各国の中学生の考え方に触れて国際理解を深めるとともに、相手に配慮してコミュニケーションを図ろうとする態度を養うように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年 pp. 51-59, 3年 pp. 9-17 など 1年 pp. 60-61, pp. 132-133 など
4 「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5領域について、バランスのとれた力を養う	<ul style="list-style-type: none"> 5領域の言語活動をバランスよく配置している。視覚的にわかりやすいアイコンでその活動の領域を示している。 Unitの各パートは、左ページの本文で「聞く」「読む」活動、右ページの言語活動で「聞く」「話す」「書く」活動を位置づけており、スタイルが一貫しているため、各パートでバランスのとれた力を養うことができる。 それぞれの領域に特化した小教材や帯教材を工夫している。小教材としてはDaily Life, World Tour, Let's Readがあり、帯教材としてはLet's Talk!, Story Retellingがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体 Unit Daily Life, World Tour など
① 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> Unitは扉の聞く活動から始める。ストーリーのおおまかな内容をつかむことが目的で、まとまりのある英語を聞いて内容を推測することに慣れるよう工夫している。 Unitの各パートやGoalのListenでは、必要な情報を聞き取る活動、話の概要を捉える活動、説明の要点を捉える活動が系統的に位置づけられている。 Daily Lifeでは、ラジオの中継、アナウンス、美術館の音声ガイド、ディスカッション、留守番電話のメッセージなど、実社会生活に即した素材を取り上げている。 World Tourでは、時差を考えて世界の各都市の時刻を予想してから会話を聞くなど、聞く目的をもたせる工夫をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unitの扉 Unit Daily Life World Tour
② 読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitの本文を読む活動では、音声と文字を一致させる、内容についての質問に答える、音読する、という学習の流れを示し、小学校英語を経験した生徒が読む力を付けているように配慮している。 Let's Readでは、物語「スーホの白い馬」や羽生結弦選手のインタビューなど、興味深い題材を取り上げ、概要や要点を捉える読み方を学べるようにしている。 Daily Lifeでは、ウェブサイト、イベントのお知らせ、観光情報、ポスターなどから必要な情報を読み取ることができるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit Let's Read Daily Life
③ 話すこと(やり取り)	<ul style="list-style-type: none"> Unitの各パートのSpeakでは、学習した言語材料を使って、友達とお互いのことを理解し合うなどの目的で、情報や考えを伝え合うように配慮している。 Daily Lifeでは、電話や道案内などの特有の表現が使われる場面を設定して、教科書の例を参考にしながらペアでやり取りを考えて演じる活動が工夫されている。 帯教材Let's Talk!では、This Is Me, My Life, My Futureという3つのテーマで友達と即興的にやり取りする活動を継続的に行えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit Daily Life Let's Talk!
④ 話すこと(発表)	<ul style="list-style-type: none"> 各UnitのGoalやYou Can Do It! では、観光プラン、好きな作品の紹介、平和についての文章を読んだ感想など、さまざまな発表の活動を位置づけている。 帯教材Story Retellingでは、学習したUnitのストーリーの内容を自分の言葉で即興的に話す活動を継続的に行えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> UnitのGoal, You Can Do It! Story Retelling
⑤ 書くこと	<ul style="list-style-type: none"> Unitの各パートのWriteでは、Speakの活動で自分が言ったことを書くことで、学習負担を軽くしながら書く力を付けることができるようにしている。 各UnitのGoalやYou Can Do It! では、自己紹介カード、日記、職場体験のレポート、自分の町の観光情報、AIに関する投稿文についての意見、大切な人に宛てた手紙など、多様な形式で目的をもった自己表現を行えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit UnitのGoal, You Can Do It!
5 英語の音声・語・文構造や文法事項などの知識を理解する	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitの「英語らしく発音するポイント」で、発音や強勢、イントネーション、区切りを丁寧に押さえている。 1年に帯教材Sounds and Lettersを設け、「音と文字」の関係について1年の前半で系統的に学習できるようにし、2, 3年では「音声のまとめ」として整理している。 新出語のうち特に重要な語は太字で示しており、受容語彙と発信語彙を区別した指導をするのに役立つ。また、帯教材Active Wordsでカテゴリーごとに語彙を整理し、言語活動に関連させて語彙を習得、活用できるようにしている。 各Unitの基本文のコーナーで文構造や文法事項を丁寧に説明するとともに、Active Grammarで関連のある文法事項を整理し、語順や修飾関係における日本語との違いに気づきを促すことができるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit 1年 Sounds and Letters, 2, 3年音声のまとめ 全体, Active Words Unitの基本文, Active Grammar

3. 構成・配列・分量への配慮

教科書全体の構成、各Unitの構成、教材の配列、分量は適切か。

観点	内容と特色	該当ページ例									
1 教科書全体の構成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が英語学習について具体的でわかりやすい目標をもてるように、各学年の目標、各学期の目標、各教材の目標を構造化して明確に示している。 <table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>自分のことや日常生活について、まとまりのある内容を伝え合うことができる。</td> <td>1学期 自分を伝える 2学期 身近な人のことを伝える 3学期 学校行事を紹介する</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>自分の町や日本文化などについて、内容を整理して伝え合うことができる。</td> <td>1学期 相手に合うプランを発表する 2学期 感想や考えを伝える 3学期 説明や描写をする</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合うことができる。</td> <td>1学期 共通点と相違点を述べる 2学期 意見をわかりやすく伝える 3学期 思い出や目標を伝える</td> </tr> </table>	1年	自分のことや日常生活について、まとまりのある内容を伝え合うことができる。	1学期 自分を伝える 2学期 身近な人のことを伝える 3学期 学校行事を紹介する	2年	自分の町や日本文化などについて、内容を整理して伝え合うことができる。	1学期 相手に合うプランを発表する 2学期 感想や考えを伝える 3学期 説明や描写をする	3年	これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合うことができる。	1学期 共通点と相違点を述べる 2学期 意見をわかりやすく伝える 3学期 思い出や目標を伝える	<ul style="list-style-type: none"> 全体 各学年 pp. 4-5
1年	自分のことや日常生活について、まとまりのある内容を伝え合うことができる。	1学期 自分を伝える 2学期 身近な人のことを伝える 3学期 学校行事を紹介する									
2年	自分の町や日本文化などについて、内容を整理して伝え合うことができる。	1学期 相手に合うプランを発表する 2学期 感想や考えを伝える 3学期 説明や描写をする									
3年	これまでの自分のことや社会的な問題について、考えを順序立てて伝え合うことができる。	1学期 共通点と相違点を述べる 2学期 意見をわかりやすく伝える 3学期 思い出や目標を伝える									
2 主教材	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の目標や各学期の目標を達成するための主たる教材として、UnitとYou Can Do It! を位置づけている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit, You Can Do It! 									
① 3年間を貫くストーリー	<ul style="list-style-type: none"> Unit本文は、日本人の中学生KotaとEri、ニューヨークからやって来たTina、韓国からの転校生Hajinの4人を中心にした3年間ひと続きのストーリーになっている。4人の中学生が交流し成長していく物語を通して、交流の楽しさ、思いやりの大切さ、心の成長などが、自分のこととして共感できるように配慮している。 ストーリーの題材は、1年では夏祭り、正月の初詣、誕生日会などの身近な話題を取り上げ、2年では外国旅行、職業体験、ミュージカルと視野を広げ、3年では広島での平和学習、AIと言語学習、環境問題など、社会のさまざまな問題について考えを深めるなど、発達段階を考慮し徐々に世界観を広げられるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit本文 1年 pp. 48-56, 2年 pp. 51-58, 3年 pp. 31-39 など 									
② 言語習得理論に沿ったUnitの構成	<ul style="list-style-type: none"> 各Unitは扉→Part 1→Part 2→Part 3→Goalという構成で一貫している。各Partで基礎的な知識・技能を習得し、Goalで技能統合的な活動に取り組むように構成している。 扉では、Unitの目標を確認し、絵や写真から題材への興味づけを図り、ストーリーを推測しながら聞いて、おおまかな内容を捉えることができるようになっている。 各Partは左ページに本文、右ページに言語活動という構成である。まず、言語の使用場面がわかり豊かな文脈のある本文で、学ぶべき表現や文法事項をインプットし、Listen→Speak→Writeの順に設定された言語活動を通して、アウトプットにつなげる。この一貫した活動の流れが言語の習得理論に沿っており取り組みやすい。 GoalはUnitの目標となるアウトプットを伴う言語活動で、理解したことを表現につなげる技能統合的な言語活動になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> Unit Unitの扉 UnitのPart UnitのGoal 									
③ 思考力・判断力・表現力を養うYou Can Do It!	<ul style="list-style-type: none"> 各学年3か所(各学期末)にプロジェクト型のYou Can Do It!を設け、それまでに学習した知識・技能を活用して、5領域を統合した言語活動に取り組めるようにしている。 You Can Do It!は、「『ドリームファミリー』を紹介しよう」「わが町観光プランをおすすめしよう」など、生徒が興味をもって取り組めるタスク型の活動を設定している。 教材の構成は、聞くことまたは読むことから始まり、Thinkingを経て、話すことあるいは書くことの表現活動に展開する。Thinkingの活動を設けることで、思考力・判断力・表現力を養うように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> You Can Do It! 1年 pp. 100-101, 2年 pp. 48-49 									
3 小教材	<ul style="list-style-type: none"> Daily Lifeは、「国際郵便」「道案内」「美術館の音声ガイド」「ポスター」など、実社会に即した場面や題材を取り上げ、「書くこと」「話すこと(やり取り)」「聞くこと」「読むこと」と領域を絞って実践的な英語の力を伸ばせるように配慮している。 World Tourは、「世界の中学生」「世界遺産めぐり」「世界がもし100人の村だったら」など、さまざまな国の情報を得て視野を広げるとともに、世界が抱える問題などについて友達と話し合い、考えを深められるようにしている。 Let's Readは、説明文・物語・インタビュー記事・日記など、さまざまな話題や形式の文章を読んで内容を理解し、目的に応じた英文の読み方を身に付けるとともに考えを深めることができるように工夫している。 Active Grammarは、関連のある文法事項を整理して知識の定着を図っている。Unit本文と関連させながら、一貫して言語の使用場面・意味・形という観点で整理しており、既習のUnitで文法を確認するGrammar Huntの活動も工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> Daily Life World Tour Let's Read Active Grammar 									

4 帯教材	<ul style="list-style-type: none">■ Sounds and Lettersは英語の「音と文字」の関係に気づかせ、英語を正しく読めるようにすることがねらいで、小学校からの接続に配慮して1年に位置づけられている。 ■ Let's Talk!はその場で会話する力を伸ばすための教材である。1問1答から、2文以上で質問に答える、相づちを打つといった活動を継続的にを行い、会話を1分間以上続ける力を育てることができる。 ■ Story Retellingは、場面を表すイラストと簡単な語句をヒントに、既習のUnitのストーリーの内容を話す活動を行う。ストーリーを自分の言葉で話すことで、即興で話す力を養うことができる。 ■ Active Wordsはカテゴリーごとに語彙を整理した教材で、各Unitの言語活動との関連を示し、生徒が自分の言葉を選んで話す意欲を高める工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none">■ Sounds and Letters ■ Let's Talk! ■ Story Retelling ■ Active Words
5 小中接続期教材	<ul style="list-style-type: none">■ 1年巻頭にLet's Be Friends!を設け、小学校から中学校の学習に円滑に接続できるようにしている。小学校の学習事項を生徒が確認できるとともに、指導者が生徒の習熟度を計るのに役立つ。	<ul style="list-style-type: none">■ Let's Be Friends!
6 付録教材	<ul style="list-style-type: none">■ 巻頭に英語の学び方ガイドを設けて各学年の学習方法の指針を示すとともに、Your Coachで技能別の学び方のコツなどを紹介し、自律的学習者の育成につながるよう配慮している。 ■ 各学年にSing a Songという歌のコーナーを設け、メッセージ性や季節感のある歌を掲載するだけでなく、Qの課題に工夫を凝らし教材としての価値を高めている。 ■ 発展的な読み物教材 Let's Read Moreを各学年に設け、バラエティ豊かな題材を選定している。 ■ 2、3年には、音声のまとめを設け、1年のSounds and Lettersから続く「音と文字」の学びを発展させ、「発音とつづり」のルールを整理しやすくしている。 ■ 各学年の巻末に英語のしくみを設け、英語と日本語の違いを視覚的に捉えられるようにしている。 ■ 巻末に領域別に整理したCAN-DO Listを掲載し、生徒が自主的に目標の到達度をチェックして次の学びにつなげることができるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 英語の学び方ガイド、Your Coach ■ Sing a Song ■ Let's Read More ■ 音声のまとめ ■ 英語のしくみ ■ CAN-DO List
7 教材配列の工夫	<ul style="list-style-type: none">■ Unit本文のストーリーは、3年間の生徒の生活を想定し、生徒が共感できるように配慮している。 ■ 各学年と各学期の目標を設定し、それに応じた題材と言語活動が配列されている。 ■ 1年の1学期で助動詞 can や want to ~という表現を扱うなど、小学校で学習したことが中学校につながるように言語材料の配列を工夫している。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ 全体 ■ 1年 pp. 28-56
8 分量・語数・時数	<ul style="list-style-type: none">■ 各学年とも年間8Unitから成り、学習や指導のうえで無理がなく適切な分量である。 ■ 学習の対象となる総新語数は1,614語(1年467語、2年544語、3年603語)であり、そのうち発信語彙の目安となる重要語649語を設定している。ほかに、小学校の既習語574語(うち重要語444語)をくり返しの学習語として設定している。 ■ 指導時数の目安を、1年100時間、2年108時間、3年95時間とし、地域や学校、生徒の状況に応じて柔軟な指導計画を作成できるよう、余裕をもたせている。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ 全体 ■ 全体

4. 今日的な教育課題への対応

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）、カリキュラム・マネジメントなど、今日的な教育課題に対応する配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none">■ 各Unitの本文の最後に、ストーリーの内容を踏まえて自分ならどうするかなどを考えるThinkの問いを置くとともに、World Tourにも世界各国の人々や文化に関するThinkの問いを置き、友達や先生と対話をしながら考えを深めることができるようにしている。 ■ 各UnitのGoalとYou Can Do It!にふり返りのコーナーを用意し、現在の自分の達成度を評価するとともに、次の言語活動への意識づけもする工夫をしている。 ■ 主体的かつ継続的に学が姿勢をもった自律的学習者の育成に資するために、各学年に英語の学習の仕方を紹介するYour Coachのコーナーを設けている。	<ul style="list-style-type: none">■ Unit, World Tour, Active Grammar など ■ Unitの Goal, You Can Do It! ■ Your Coach
2 国連の持続可能な開発目標（SDGs）への対応	<ul style="list-style-type: none">■ SDGsの17の目標に関連する題材を豊富に用意している。 <ol style="list-style-type: none">1 貧困をなくそう：3年 Let's Read 3 “Changing the World” 2 飢餓をゼロに：3年 World Tour 2 “How Do We Live?” 3 すべての人に健康と福祉を：3年 World Tour 2 “How Do We Live?” 4 質の高い教育をみんなに：3年 Unit 1 “School Life Around the World”など 6 安全な水とトイレを世界中に：3年 World Tour 2 “How Do We Live?” 8 働きがいも経済成長も：3年 Let's Read 2 “Robots Make Dreams Come True”など 9 産業と技術革新の基盤を作ろう：3年 Unit 4 “AI Technology and Language”など 10 人や国の不平等をなくそう：3年 World Tour 2 “How Do We Live?”など 11 住み続けられる町づくりを：3年 You Can Do It! 1「[過去]と[現在]の相違点を挙げよう」など 12 つくる責任つかう責任：3年 Unit 5 “Plastic Waste”など 13 気候変動に具体的な対策を：3年 Daily Life 4「ニュース」など 14 海の豊かさを守ろう：3年 Unit 5 “Plastic Waste”など 15 陸の豊かさも守ろう：3年 World Tour 1 “Living With Animals”など 16 平和と公正をすべての人に：3年 Unit 3 “Lessons From Hiroshima”など	<ul style="list-style-type: none">■ 3年 <ul style="list-style-type: none">・ pp. 98-101 ・ pp. 96-97 ・ pp. 96-97 ・ pp. 9-17など ・ pp. 96-97 ・ pp. 60-63など ・ pp. 51-59など ・ pp. 96-97など ・ pp. 48-49など ・ pp. 65-73など ・ p. 74など ・ pp. 65-73など ・ pp. 46-47など ・ pp. 31-39など

3 カリキュラム・マネジメントへの対応	<ul style="list-style-type: none">■ 教科横断的な観点から、社会科、美術、音楽などの教科との関連を図れるようにしている。世界各国の地理や文化を取り上げているWorld Tourで社会科との関連、Daily Lifeの「美術館の音声ガイド」や3年Unit 6の「鳥獣戯画」を題材にした活動で美術との関連、付録のSing a Songで音楽との関連を図ることができる。 ■ 職業体験、環境問題、安全・防災、我が国の郷土や伝統文化、修学旅行などを題材として取り上げ、学校の教育活動や目標との連携が図れるようにしている。 ■ 複数の帯教材を設けることで、短時間の帯活動を組み合わせた柔軟な授業計画の設定を可能にしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 1年 p. 67など 2年 p. 117 3年 pp. 82-83など ■ 2年 pp. 63-71、pp. 75-83など ■ Let's Talk! など
4 生徒が英語にくり返し触れる工夫	<ul style="list-style-type: none">■ 小学校で学習した表現や文型・文法事項を中学校の早期段階で再び扱うように設計し、基本的な表現をくり返し活用し確実に定着できるようにしている。 ■ 帯教材 Story Retellingを設け、既習のUnitのストーリーにくり返し触れ、自分の言葉でその内容を伝えることができるようにしている。 ■ Active GrammarのGrammar Huntで、既習の英文を読み直して文法事項を確認する活動を通し、教科書にくり返し触れられるようにしている。 ■ 2、3年の冒頭にPlay Back the Storyを設け、音声を通して前学年のストーリーにくり返し触れられるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 1年 pp. 6-81 ■ 1年 pp. 136-143 など ■ 1年 pp. 58-59など ■ 2年 p. 8、3年 p. 8
5 小学校からの接続	<ul style="list-style-type: none">■ 小学校で既習の語彙や表現、文法事項には、マークを付し、小学校で学習してきた内容であることを意識した効果的な指導が行えるよう工夫している。小学校の学習語(600～700語)のうち574語を、くり返し学習できるように設定している。 ■ 1年にLet's Be Friends!を設け、小学校での英語の習熟度を見取ることができるようにするとともに、Smile, Eye Contact, Clear Voice, Responseの4つの「たいせつ」を示し、コミュニケーションの鍵として小学校から引き続き意識できるようにしている。 ■ 1年に帯教材 Sounds and Lettersを設け、小学校で音声中心に学習してきた生徒が、音と文字の関係を確かめながら、文字を読む力を付けられるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ New Words, 基本文のまとめ ■ 1年 pp. 6-19 ■ 1年 Sounds and Letters
6 高等学校への接続	<ul style="list-style-type: none">■ 3年のYour Coach「英語のトレーニングを続けよう」で、長期的な目標を持ちながら中学校卒業後も継続的に英語学習に取り組むことを促している。 ■ 3年の英語のしくみで、英単語の成り立ちとして接頭辞や接尾辞についてイラストとともに示し、語数が大幅に増える高校からの学習にも役立つように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 3年 p. 128 ■ 3年 p. 141
7 地域との連携	<ul style="list-style-type: none">■ 自分の学校や地域のよいところを伝えて伝え合う言語活動を多く位置づけている。 1年 You Can Do It! 3「学校行事の紹介ページを作ろう」 2年 You Can Do It! 1「わが町観光プランをおすすめしよう」など	<ul style="list-style-type: none">■ 1年 pp. 132-133 2年 pp. 48-49など
8 安全・防災教育	<ul style="list-style-type: none">■ 2年Unit 5で防災訓練を題材に取り上げ、災害から身を守るための注意事項を確認したり、防災バッグの中身を考えたりする活動を通して、安全・防災に対する意識を高めることができるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 2年 pp. 63-71
9 スポーツ教育	<ul style="list-style-type: none">■ Unitの題材として校内球技大会などを取り上げるとともに、2年のLet's Readにフィギュアスケーター羽生結弦選手のインタビューを収録したり、3年のLet's Read Moreで1964年の東京オリンピックのエピソードを取り上げたりして、スポーツのもつ魅力や意義が感じられるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 2年 pp. 19-27、pp. 95-103など 3年 pp. 129-130

5. 題材の選定

教育的に価値の高い多様な題材を扱っているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 多様な考え方を理解し、公正な判断力を養う	<ul style="list-style-type: none">■ 3年Unit 4で「AIと言語学習」についてさまざまな意見の投稿文を読んで自分の意見を書いたり、3年のYou Can Do It! 2で「学校に必要なもの」についての意見を読んで賛否とその理由を伝え合ったりする活動を通して、多様な考え方を理解し、公正な判断力を養うことができるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 3年 pp. 51-59 pp. 86-87
2 伝統文化を尊重し、国や郷土を愛する心を育てる	<ul style="list-style-type: none">■ 2年のYou Can Do It! 3の「日本のおもしろいものを紹介しよう」で、さまざまな日本の文物の魅力を発信する活動を設定している。 ■ 2年のDaily Life 8「音声ガイド」で葛飾八斎の「富嶽三十六景」、3年Unit 6のGoalの活動で「鳥獣戯画」を取り上げるなど、日本の伝統的な絵画を素材とした言語活動を行うように工夫している。 ■ 2年のDaily Life 7「観光案内」で日本各地の観光情報を理解したり、「わが町観光プランをおすすめしよう」などで郷土の魅力を発信したりすることを通して、国や郷土を愛する心を育てることができるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 2年 pp. 126-127 ■ 2年 p. 117、3年 pp. 82-83 ■ 2年 pp. 104-105、pp. 48-49など

3 国際理解を深め、国際協調の精神を養う	<ul style="list-style-type: none">■ 国際理解を深めるための小教材 World Tourを系統的に位置づけている。 1年 世界の中学生／世界の時刻(時差) 2年 いろいろな単位(ヤードポンド法)／世界を舞台に働く人／世界遺産めぐり 3年 Living With Animals／How Do We Live?(世界がもし100人の村だったら) ■ 2年Unit 4の「海外旅行」、Unit 7の「異文化クイズ」、3年Unit 1の「世界の学校」など、Unitの題材も国際理解を深めるのに適した題材を多く選定している。	<ul style="list-style-type: none">■ 1年 p. 57、pp. 96-97 2年 pp. 46-47、pp. 90-91など ■ 2年 pp. 51-59、pp. 95-103など
4 人権を大切にする意識を育てる	<ul style="list-style-type: none">■ 3年のLet's Read “Robots Make Dreams Come True”で、障害をもつ人の社会参画を助けるロボットを取り上げ、人権を大切にする意識を育てるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 3年 pp. 60-63
5 キャリア教育	<ul style="list-style-type: none">■ 2年のUnit 6で職場体験を題材に取り上げ、適切な勤労観・職業観が育まれるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 2年 pp. 75-83

6. イラスト・音声・映像などの配慮や工夫

イラストや写真、音声・映像などが、学習指導に効果的に使用できるよう配慮されているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 イラスト・写真	<ul style="list-style-type: none">■ 大判のイラストや、はっきりした写真を用いて、インパクトのある紙面構成となるよう配慮している。1年のUnitの扉は見開き2ページの構成で、題材への興味づけを図るのに役立つ。 ■ イラストや写真に登場する人物に性別による偏りがないようにするとともに、人種や身体的特徴などについても、多様性に意を用いている。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体、1年Unitの扉など ■ 全体
2 音声・映像	<ul style="list-style-type: none">■ Unitのストーリーは、コミュニケーションの場面や状況を理解しやすくするために、音声だけでなく、スライドアニメや実写のドラマ映像も用意している。 ■ 音声や映像、リンク集など、学習を広げ深めるコンテンツを、紙面に付した二次元コードを通して無償で利用できるようにし、家庭学習にも活用できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ 全体

7. デザインや製本上の観点から見た配慮や工夫

全ての生徒や指導者が使いやすくわかりやすい教科書であるための配慮はされているか。

観点	内容と特色	該当ページ例
1 特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none">■ 特別支援教育の専門家の校閲を受けたことが明記されており、全ての生徒にとってわかりやすく、読みやすい教科書になるように配慮している。 ■ 各Unitの紙面構成が統一されており、同じ種類の情報を決まった位置に配置し、生徒が迷わずに学習することができるよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ Unit
2 カラーユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none">■ カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受けたことが明記されており、色覚特性をもつ生徒が学習に支障を来すことがないように配慮している。 ■ 文構造や文型の整理にあたって主語と動詞の囲みを色だけでなく形でも識別できるようにし、色覚特性をもつ生徒に配慮している。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ 1年 pp. 58-59など
3 文字の書体・大きさ・文字組等への配慮	<ul style="list-style-type: none">■ アルファベットの文字について、特に入門期においては書きやすい5：9：5の比率の4線の幅に対応し、かつ識別しやすい形の新しいフォントを独自に開発して使用している。 ■ 発達段階や教材の内容に応じて、文字の種類や大きさ、文字組を調整することで、さまざま種類の英語の書体に徐々に慣れていけるように配慮している。 ■ 吹き出し等の日本語の文字は、視認しやすいユニバーサルデザインの書体を使用している。	<ul style="list-style-type: none">■ 1年 pp. 6-24など ■ 全体 ■ 全体
4 表記・表現の配慮	<ul style="list-style-type: none">■ 中学校の配当漢字には全て振り仮名を付し、日本語の読みの負担を軽減する配慮をしている。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体
5 印刷・製本上の配慮	<ul style="list-style-type: none">■ 判型については、横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せることができる横幅の広いAB判を採用している。 ■ 表紙は耐久性のあるPPラミネート加工を施しており、折れにくく汚れにくい。 ■ 製本は堅牢で長期間の使用に耐えられる。中央が最大限開く綴じ方になっている。 ■ 本文用紙は、軽くて裏写りにくい紙を使用している。原料や製法については、環境への負担を少なくし、生徒の健康にも配慮している旨が明記されている。 ■ 環境と健康にやさしいエコマーク認定の植物油インクで印刷されている。 ■ 帯教材 Sounds and Lettersでは、両観音開きの製本を採用し「アルファベット」と「音と文字」の学習を効果的に関連づけるとともに、教科書を折って単語を読む練習ができるように工夫している。 ■ 帯教材 Let's Talk!では、本文より短い寸法の紙を用い、相づちや感想などの大切な表現が常に目に入るように工夫している。	<ul style="list-style-type: none">■ 全体 ■ 表紙 ■ 全体 ■ 全体 ■ 全体 ■ 1年 pp. 18-23 ■ とじ込み

内容解説資料	この資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。
--------	--

光村図書